

見つめよう・わたしたちの町
- 体に不自由な人の便利な町ってどんな町？ -

北九州市立広徳小学校第3学年では、総合的な学習で、テーマ「見つめよう、わたしたちの町」に取り組むことになりました。私たちのすんでいる町調べなど、社会科で学習したことを、関連・発展させ自分の住んでいる町をしっかりと見つめ、見直し、より住みよい町にしていこうと、このテーマを子どもたちの話し合いのもとで、設定しました。20時間の予定時間をとり、学習をすすめていきました。

3年生の子ども達は、4月に入ってすぐ「自分たちの住んでいる町は、住みやすいかどうか」を考えることを、年間のめあてとして取り組んできました。スーパーマーケット・商店街の見学等を経て、「体の不自由な人にとって住みやすい町は、自分達にとっても住みよい町に通じるのではないか」ということにたどり着きました。そこで、11月13日に「北九州市 人にやさしいまちづくり週間」事業による「バリアフリー体験学習コーナー」に行き、多くの体の不自由な人に会ったり、体験させていただいたりしました。また、学校に帰ってからも、親の協力による車椅子・アイマスク体験をし、聴力障害の方や、視力障害の方を招いて、生活の中で改善してほしいところを話していただきました。そうしていよいよ自分達にとって、住みやすい町にするための設計図を描くことになりました。そして、それをもとに、ダンボールなどで造っていきます。以下、子ども達を書いた文と描いた設計図を紹介します。

1、「駅」

ホームに柵を作り、電車が来たら開くようにする。また、電車の中で弁当を買う時のために、点字付きのメニューを配る。電車の中に動く歩道をつける。

2、「家」

家の中に病院があったり、商店があったりする。自然に流れるトイレや、声がかかるトイレやドアがあったり、二階建ての家だけど、広くて住みやすい家である。周りの壁が木でできていたり、わらの天井だったりする。たくさんのロボットがいて、世話をする。

3、「店」

店のトイレを広くし、売り場などのスペースも広くする。えんぴつなどの商品のどれにも、点字をつけ、分かりやすくする。分からないときはピカッと光って、店の人が来るようにする。

4、「レジャー」

家の中で、体が不自由でもいろいろな事が楽しめる所を造る。船にも、そんな施設があるようにしたい。

今、こんな子ども達の夢が少しずつ叶ってきています。さらに、拡がって、実現できていくといいなと思って、今後、学習の中で製作していきます。また、大人になってこの夢を実現させる子どもがいるといいです。